



クイズまちがいさがし

2枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードをプレゼントします。

秘書広報課 ☎66・1145

応募方法

ハガキまたはファクスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて秘書広報課(〒443-8601 66・1190)へ。当選者と答えは、広報がまごおり4月号に掲載します。

学校のふしぎ話

「ある小学校の石」

学校には2つの顔があります。
1つは人間たちのエネルギーにあふれる明るい昼の顔。
もう1つは、人間の知らない夜の顔。
蒲郡には、この2つの顔を見ることができない不思議なみかん仙人がいるそうです。

ある小学校の校庭のすみの隅にうさぎ小屋がある。小屋の前方にはサクラの木があり、その向こうに丸い池がある。

昔、小屋の後ろのうさぎ小屋の根元に「いのちの石」があった。節分も過ぎ、久しぶりに暖かな日曜日のお昼近く、みかん仙人がうさぎ小屋にもたれてうたた寝していると、小さな声がする。

「ちよっと、みかん仙人、ピョン」

「ううん、だれじゃ？ええ気持ちで寝とつたに、ふわああ」みかん仙人が後ろを見ると、うさぎたちが金網にへばりついて話している。

「ここから外に出してちょうだいピョン」

「今から、大仕事があるのよピョン」

「みんなして「いのちの石」のひっこしを手伝つてのよピョン」

「ほう、それではみかん仙人が枝を小屋にあてると、うさぎたちはスルリと金網の外へ飛び出し、いのちの石を囲んで叫んだ」

「さあ、いのちの石のみんな、行くよ！せーのピョン」

「いのちの石」からたくさん足の音が出てゆっくりと立ち上がった。うさぎたちが軋がらないように支えながら、ちよっとずついのちの石が歩いていく。ズーリ・スーリ・スーリ……そして、いつも子どもたちが遊ぶ桜の木の下まで来るとたたくさんの足は消えて石は座った。

「なんでひっこしたんじゃ？」みかん仙人がいのちの石に聞くと

「昔私は「いのち」と刻まれて、学校で死んだ生き物たちを、子どもたちが私の周りに埋めてくれるのを見守ってきました。この生き物たちの気持ちは私の中に入ってきて今もここに住んでおります。この生き物たちが、もつと子どもたちの近くにいきたい。と言うんです。それでうさぎたちにひっこしの手伝いを頼んだんです。」

「ほう、うさぎたちこそうさぎさん」みかん仙人が枝を小屋へあてるとうさぎたちはスルリと小屋へ帰っていった。すずめのお宿からすずめたちが飛んできて

「ここがいいじゃんチュンチュン」
「ひっこしバンザイチュンチュン」

◆12月号の答え

「水族館のクリスマスパーティー」



12月号当選者 応募総数 90通 正解者 76人(50音順・敬称略)
岩瀬 豊(形原町) 小笠原妃咲(三谷町) 齊藤三代子(三谷北) 杉浦美代子(元町) 鈴木 友子(三谷町)
高田 蓮(本町) 肥田 雄幸(鹿島町) 三田 直美(水竹町) 森 直久(竹谷町) 四谷いつ子(鹿島町)